

2016/08/06  
大阪介護支援専門員協会  
堺ブロック研修会

# 介護支援専門員の実践研究の基本

## —研究大会の意義、発表の基本・方法—

兵庫大学  
生涯福祉学部 社会福祉学科  
和田 光徳

## 発表するで！ 介護支援専門員！ 研究大会のキホン！



研究発表は難しい、大変だと思いますか？  
安心して下さい。できます！できるようにします！  
主任介護支援専門員の更新研修の受講要件の一つが、  
「研究大会等において、演題発表等の経験」です。  
研究大会の発表のイロハを学んだ人は、少ないと思います。  
事例研究で必要な手順、守っていますか？  
アンケートを活用する場合、正しい考え方で処理してますか？  
単純に「〇〇%」や「平均値」を提示していませんか？  
本研修で基本を学び、研究大会で発表する方が増えること、  
期待しております！

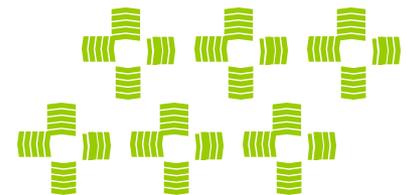


すごい、講師にプレッシャーなんですけど・・・  
「研究」ということ、その「発表」ということの  
基本の「キ」を、考えたいと思います。



- ①介護支援専門員に係る研修の企画、講師やファシリテーター経験がある方
- ②法定外の研修に年4回（計20時間）以上参加した方
- ③日本ケアマネジメント学会等が開催する研究大会等において、演題発表の経験がある方
- ④日本ケアマネジメント学会が認定する認定ケアマネジャー
- ⑤主任介護支援専門員の業務に十分な知識と経験を有する者であり、都道府県が適当と認める方

## 主任介護支援専門員 更新研修の受講要件



# 研究の意義

「『実践を見つめる』ということで、（欧米の理論の）直輸入として批判される部分が解消・・・」

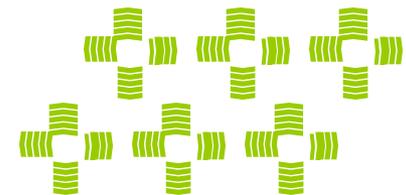
『実践からの問いかけ、実践に還元できる研究のあり方』

（久保紘章、2002）

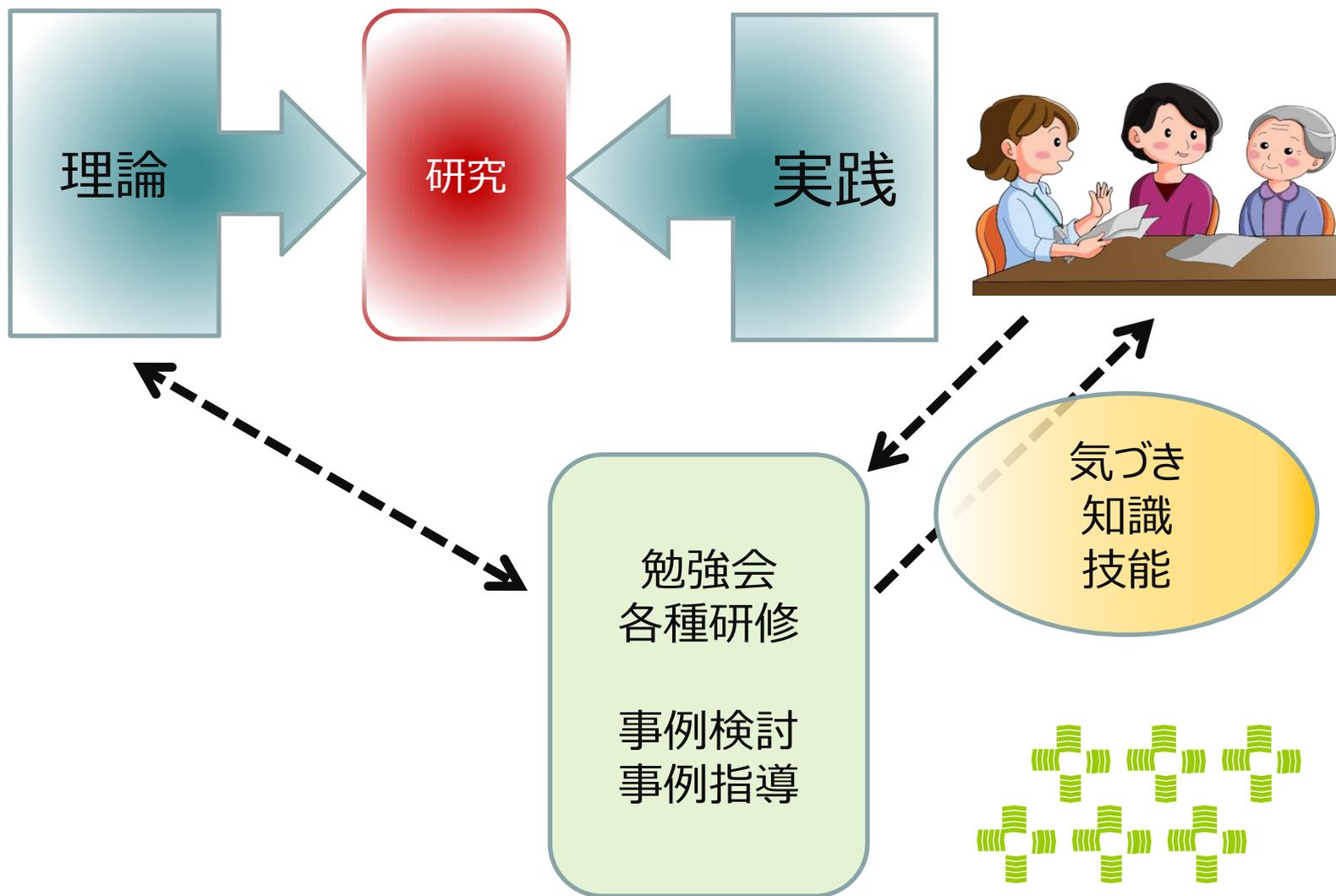


社会福祉の課題が何よりも現実に生きている人々の生活と、そこに発生する多様な生活問題を解明すること、さらにはその解決なり、緩和なりに必要とされる支援を社会的に提供することにある。（古川孝順、2001）

「理論と実践の往復」



# 理論—研究—実践



- 研究を通して明らかにできたこと

できなかったこと



- すべてのケアマネジメントに関わる人々の共有資源
- 理論の発展→価値の創造→健やかな暮らし
- 社会的認知→専門職化→プロフェッショナル
- 研究を通じた“つながり”

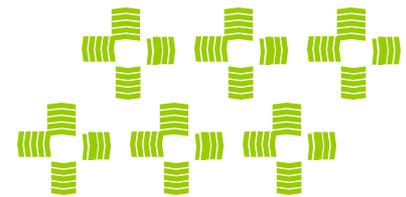


近そうで、遠い…

研究者の岸边



実践の  
岸边



## 研究とは

「物事を詳しく調べたり、深く考えたりして、  
事実や真理などを明らかにすること」

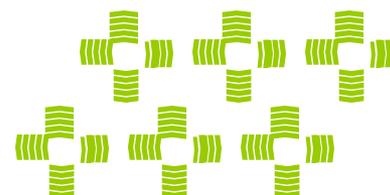
まず、

「調べたり（探したり）、考えたり」

\* 前のめりな姿勢が必要



現場は研究の種（ケアマネGO）



「興味（おもしろみ）」の発想から  
「**関心（concerning）**」の意識へ



関心とは

「何かおかしいと感じる感覚、  
自らの意識の動き」

専門的知識を源泉とする（ケアマネGO）



私たちができることを、「しごと」の一部として組み込む

「関心 (concerning) 」したことを、

「F (Focus) 焦点」し、そのことの

「D (Data) 状況 (の情報) 」を考える

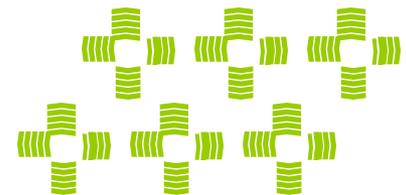
「A (Arguing point & Action) 論点と共有」



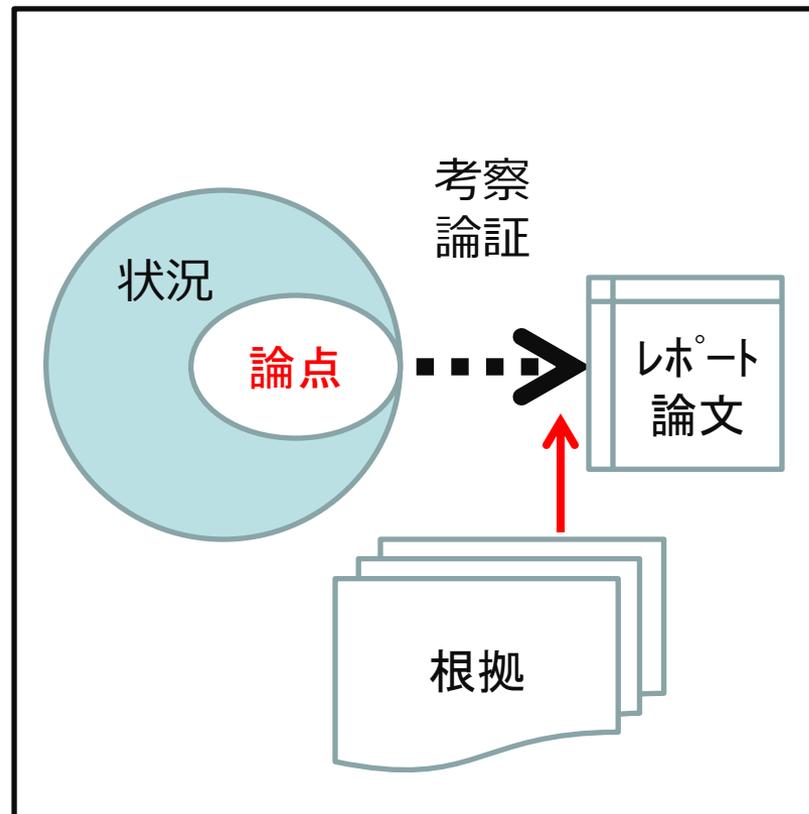
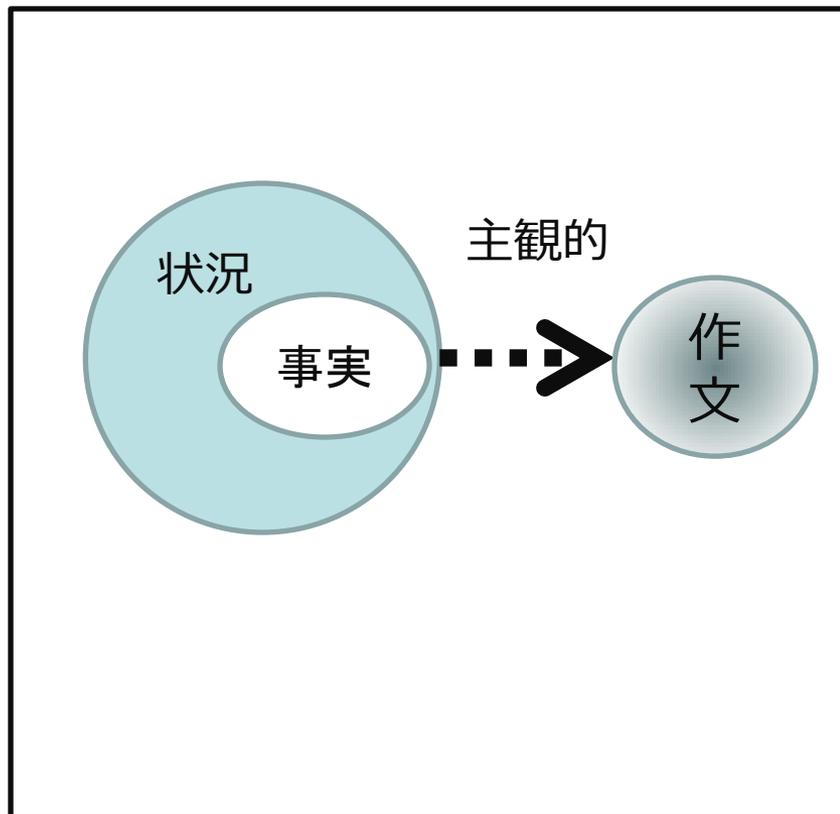
論点とは

「一番伝えたいこと、

もっとも明らかにしたいこと」



# 作文とレポート



作文（感想）とレポート・論文の違い



## 演習 ; 「関心」を意識化する、言葉にしてみる

事実  
(何が起こったか)

(問題意識、興味、うまくいかないこと、うまくいっていること、不満、愚痴など)

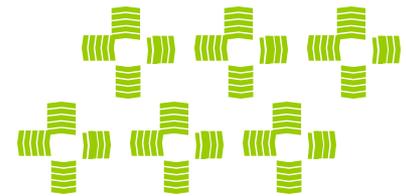
こころに残る状況

「問題は〇〇〇である」

- 明らかにしたいこと

- 強く伝えたいこと

まわりの人と話し合って、意見を聞きましょう  
そして「リサーチクエッション」へ



私たちができることを、「(研究を)しごと」の一部として始める

「F (Focus) 焦点化」

「D (Data) 状況についての情報収集と整理」

「A (Arguing point & Action) 論点と共有」



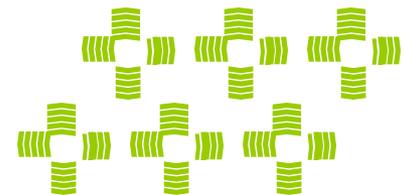
「R (Research & Response) 研究と発表」



「論点」をどのように表現するか

専門的知識を源泉とする「ケアマネGO」

\* もう一歩踏み込んで考える

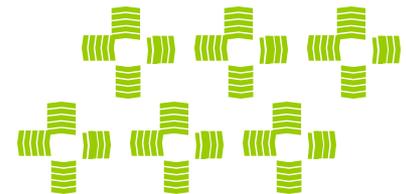


# 「研究」の語り合い

- 自分と語り合う
- 共同研究者と語り合う
- 文献と語り合う（先行研究を調べる）
- 研究対象と語り合う
- 研究発表の聞き手と語り合う

（矢野隆行「よくわかる介護福祉研究入門」保育社、2010）

研究をすすめる5つのコミュニケーション



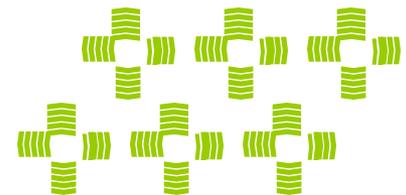
# 先行研究を調べる

- 公立図書館の相談カウンター
- 学会誌
- 専門誌
- NDLサーチ（国立国会図書館サイト）  
<http://iss.ndl.go.jp/>
- Cinii（国立情報学研究所サイト）  
<http://ci.nii.ac.jp/>
- J-stage（科学技術振興機構）  
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>
- Google scholar  
<http://scholar.google.co.jp/>

# 「論点」を表現する

- 何（道具）を使うか（方法論）
- どう使いこなすか（道具を使うスキル）
- 手順を計画する（作業工程）
- 作業する・考察する
- 「作業」の節目を俯瞰する（まとめる・発表する）

「論点」を表現する



## 「論点」を表現するための“道具(方法)”

- **量的研究**

「数量として表されたデータについて統計分析の手法を用いて、研究における仮説を検証する」 ⇒ 統計調査、実験

- **質的研究**

「人間をとりまく様々な現象の中で、数値に還元しきれないもの、数値化することでこぼれ落ちてしまうものなど、明確に数値化できない現実の在り様について分析する」

- 2つの「表現」

- ①特徴を見出したり、事実のあり方をはっきりさせる  
(記述統計) ……平均値、棒グラフ(度数分布)、散らばり具合
- ②「この法則が正しいなら、『このような時にはこうなるはずだ』という仮説をたて、この仮説が正しいかどうかによって、その法則の正しさを判定する。その際、代表の値だけを調べて、その事実から全体にもその法則があてはまることを確かめる  
(推測統計学)

- **仮説**の基本的骨格

「 \_\_\_\_\_ ならば、 \_\_\_\_\_ である。」

EX.「職員間のコミュニケーションが密であれば、業務上のミスは少なくなる」

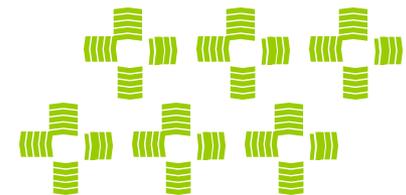
- 仮説のステップ

① 仮説の命題化 (**一般仮説**)

② **作業仮説** (概念から指標へ)

「職員間のコミュニケーションが密」とは

「業務上のミス」とは



# 統計の基本の「キ」

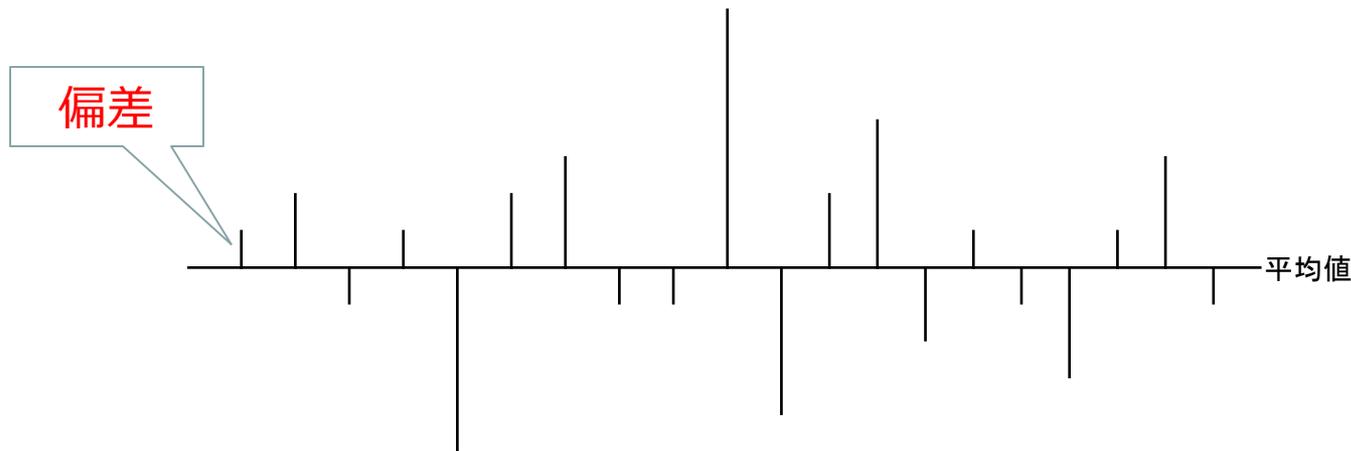
- 数量として表されたデータ
  - ① 名義尺度 (離散型データ)
  - ② 順序尺度 (離散型データ)
  - ③ 間隔尺度 (連続型データ)
  - ④ 比率尺度 (連続型データ)

## 度数分布

ゲームの回数	マメをつかんだ個数
1	4
2	5
3	6
4	2
5	8
6	9
7	7
8	6
9	5
10	5

- 代表値
  - ① 平均値 (数直線上の重心)
  - ② 中央値
  - ③ 最頻値

- **分散** (ばらつきの度合い)



- 偏差の和はプラス・マイナスで 0 になる
- そこで偏差の二乗した値を利用する (**平方和**)
- 平方和を標本個数で割ると1個あたりのちらばり具合がわかる (**分散**)
- 数直線上の位置関係に戻す (平方根) (**標準偏差**)

● 標準偏差（データのばらつき度）をだしてみよう！

データ	平均値	データ-平均値	(データ-平均値) <sup>2</sup>	平方和 (SS)	分散
4					$\sigma^2 = \frac{SS}{N}$
5					
8					
11					
12					

$$\sigma = \sqrt{\frac{SS}{N}}$$

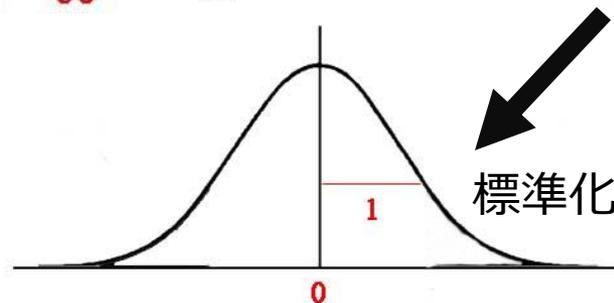
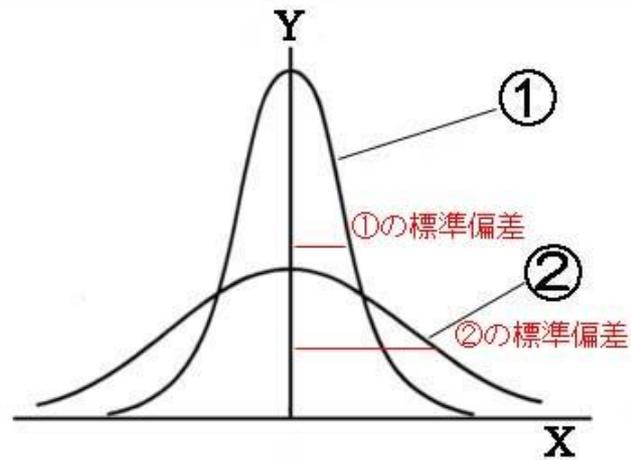
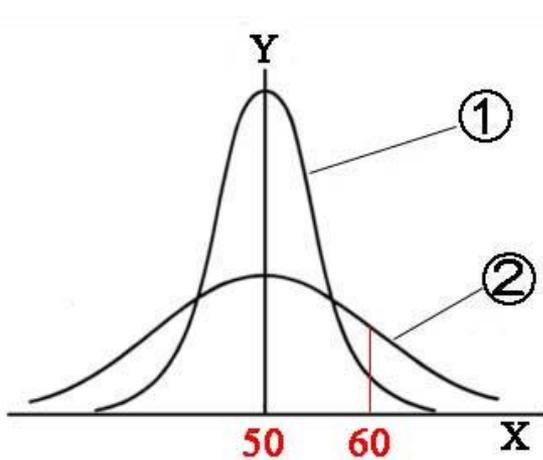



# ● 個々のデータのちらばり具合



**Z得点**

Z	=	$\frac{\text{ある得点} - \text{平均点}}{\text{標準偏差}}$
---	---	--



$$\text{偏差値} = 50 + 10 \times \frac{\text{ある得点} - \text{平均点}}{\text{標準偏差}}$$

# 皆さんを悩ませた“偏差値”

得点	平均	偏差	SS	分散	SD	Z得点	偏差値		
35	61.5	-26.5	702.25	260.25	16.13	-1.64	34		
55		-6.5	42.25			-0.40	46		
75		13.5	182.25			0.84	58		
50		-11.5	132.25			-0.71	43		
70		8.5	72.25			0.53	55		
80		18.5	342.25			1.15	61		
90		28.5	812.25			1.77	68		
45		-16.5	272.25			-1.02	40		
55		-6.5	42.25			-0.40	46		
60		-1.5	2.25			-0.09	49		
615		61.5	2602.5						$X = Z\sigma + \mu$

$\sigma = 10$   
 $\mu = 50$

10段階評定と  
偏差値との関係

5 段 階	10 段 階	偏 差 値	上 か ら の %
5 (10%)	10 (3%)	75	0.6
		74	0.8
		73	1.0
		72	1.3
		71	1.7
	70	2.2	
	69	2.8	
	68	3.5	
	9 (4%)	67	4.4
		66	5.4
65		6.6	
64		8.0	
63		9.6	
4 (20%)	8 (9%)	62	11.2
		61	13.5
		60	15.8
		59	18.4
		58	21.1
	7 (15%)	57	24.1
		56	27.4
		55	30.8
		54	34.4
		53	38.2
3 (40%)	6 (19%)	52	42.0
		51	46.0
		50	50.0
		49	54.0
		48	58.0
	5 (19%)	47	61.8
		46	65.6
		45	69.2
		44	72.6
		43	75.9
2 (20%)	4 (15%)	42	78.9
		41	81.6
		40	84.2
		39	86.5
		38	88.8
	3 (9%)	37	90.4
		36	92.0
		35	93.4
		34	94.6
		33	95.6
1 (10%)	2 (4%)	32	96.5
		31	97.2
		30	97.8
		29	98.3
		28	98.7
	1 (3%)	27	99.0
		26	99.2
		25	99.4

- 標準誤差

標準誤差は**標本平均のばらつき**であり、標本平均で母（集団）平均を推測する時の誤差の大きさを表す指標

- \* 全数調査と標本調査

無作為抽出の標本調査の場合、標準誤差はサンプル数と「手間」とのバランスを計る上で、とても重要

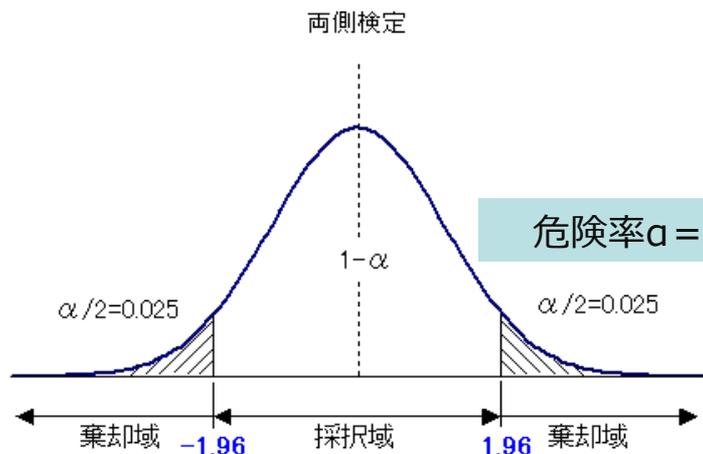
- 帰無仮説

統計学上まず、「処理効果は無い」とたてる仮説

この**帰無仮説を棄却する**（否定する統計的結果）ことで、何らかの効果を推計（証明）する（**仮説検定**）



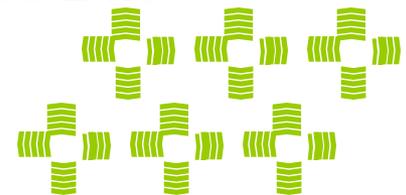
作業仮説（指標）から帰無仮説をつくる



危険率 $\alpha = 0.05$  ; 棄却できないのに、棄却してしまう過ち

# 仮説検定の基本ステップ

- ① 帰無仮説をたて、 $\alpha$ 水準を決める  
一般的に0.05で設定される。
- ② 棄却域を設定する  
検定の種類による分布表にしたがう
- ③ 計算する（今は専門の統計ソフトがあります）  
IBM SPSS Statistics 24.0
- ④ 判定をする



## 【量的研究における検定】

### ● Z 検定

全国の小学5年生の国語の一斉テストの平均は57点、標準偏差は12点でした。ある先生が自分のクラス36人に新しい国語の教授法をやってみました。その後その一斉テストを実施してみると、テストのクラス平均点は61点でした。新しい教授法は効果があったのか、なかったのか検証しなさい。

2010.9.18

関西がんチーム医療研究会

表題

VI-4(12)

“社会的痛み”としての、  
がん治療費問題についての一考察

所属  
氏名

市立岸和田市民病院  
地域医療センター (MSW)  
澤近 敦子

## 死を司るものーミスターDの言葉

- 「だろう？ 私は賄賂をもらって死を免除したことなど、一度もないからな。金持ちだろうが、権力者だろうが、公平に扱っている。ところがその一方で、死にゆく人というのは、社会的に完全な弱者なんだよ。～」

小森康永著「緩和ケアと時間」2010

寸劇「ダンシング・ウィズ・ミスターD」シナリオより

\* 赤字は筆者による

研究  
背景

治癒では  
ない生活

長期の  
治療期間

経済的  
負担

治療の  
進歩

合併症  
後遺症

役割の  
変化

情報錯綜  
情報格差

根拠

## 3 時点における悩みや負担の割合

	診断時	診断~現在	現在
外来	0.8 %	0.3 %	0.2 %
入院・退院・転院	0.8	1.2	0.2
診断・治療	6.4	8.3	5.5
緩和ケア	0.7	0.4	0.7
告知・IC・SO	1.0	1.7	0.7
医療者との関係(自院)	1.2	3.5	2.3
医療者との関係(他院)	0.9	0.6	0.1
症状・副作用・後遺症	1.2	25.3	23.7
不安など心の問題	61.1	37.3	43.2
生き方・生きがい・価値観	4.4	4.3	4.4
就労・経済的問題	6.0	7.3	11.3
家族・周囲の人との関係	15.4	9.5	7.4

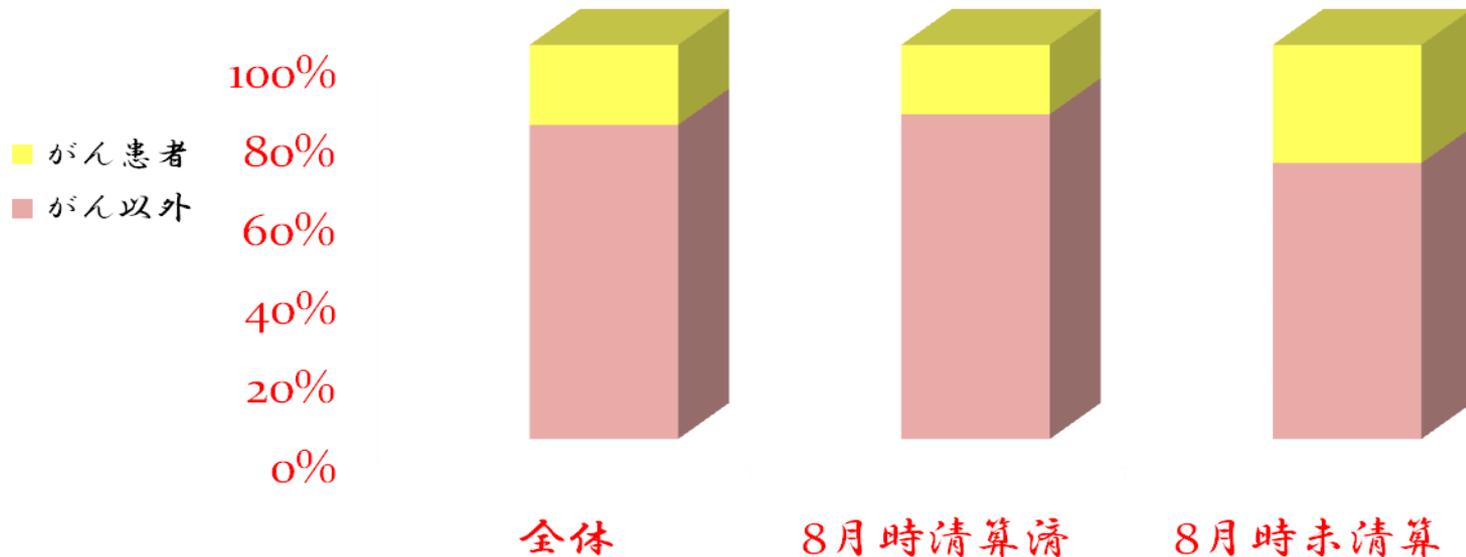
「がんと向き合った7885人の声」平成16年 より

目的  
方法

# 2010.1~6退院時支払保留患者

	退院時 支払保留者全数	8月審査時 支払完了者	8月審査時 支払保留継続者
退院時支払保留者	370 名	290 名	80 名
内、がん患者	75 名	51 名	24 名
比率	20.3 %	17.6 %	30.0 %

長期未収患者群の内、がん患者群の発生数は有意に高い  $X^2=5.97$   $df=1$   $p<0.05$



結果

根拠

## 長期支払保留がん患者のがん種

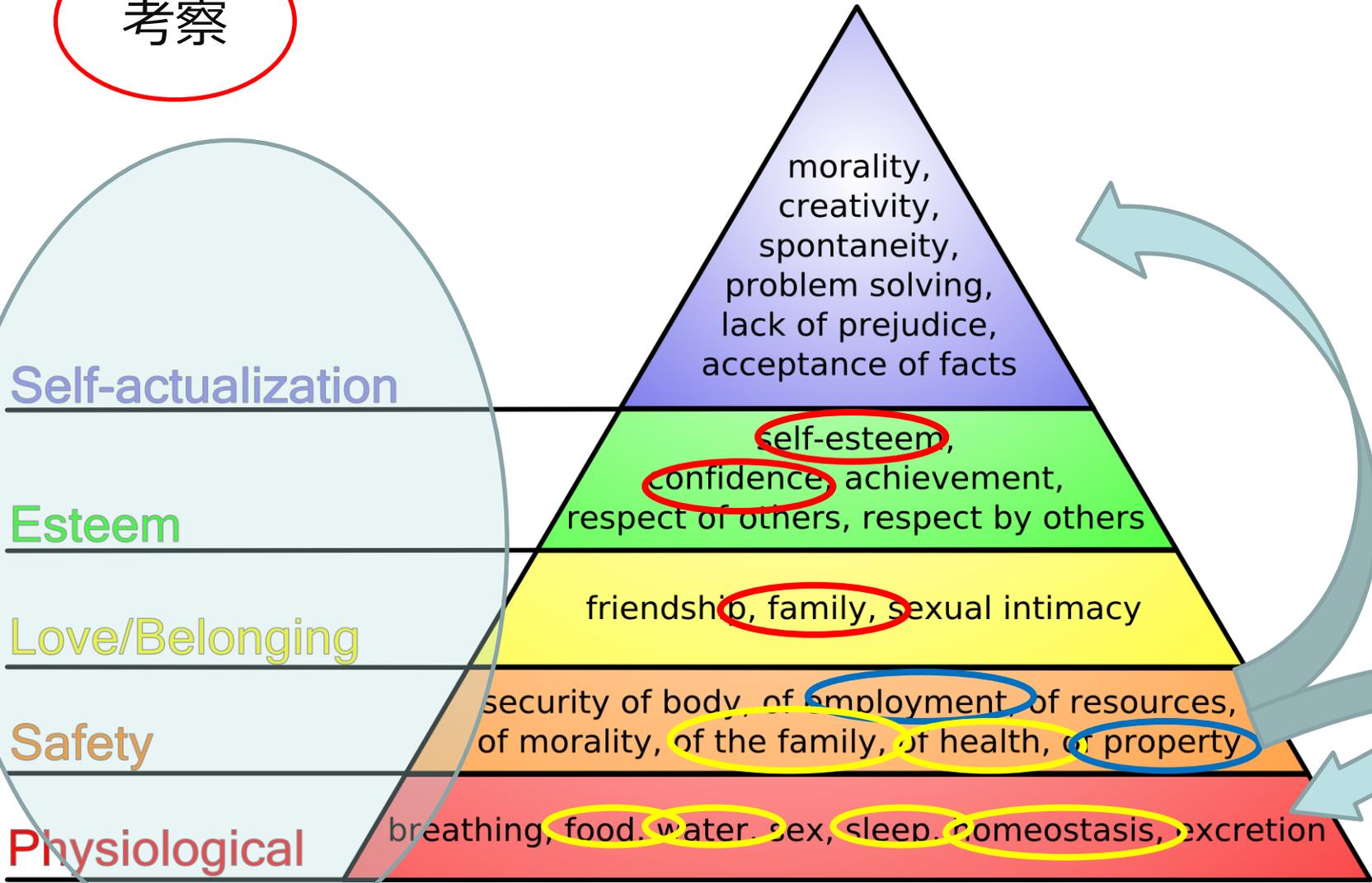
がん種	実数(人)	比率(%)
肺	8	33.3
頭頸部	5	20.8
血液	2	8.3
肝臓	2	8.3
乳がん	1	4.2
胃	1	4.2
膵臓	1	4.2
大腸	1	4.2
直腸	1	4.2
その他	2	8.3
合計	24	100%

# がん相談の内容

根拠	相談内容延べ数	重点項目チェック数	比率
がんの治療・検査	181	147	12.1 %
症状・副作用・後遺症	118	69	7.8 %
告知・SO	228	60	15.2 %
受診・転院支援	361	299	24.1 %
緩和ケア	57	39	3.8 %
在宅医療への支援	81	63	5.4 %
介護・看護・栄養	117	73	7.8 %
社会生活（仕事・学業）	23	2	1.5 %
医療費・生活費	80	27	5.4 %
漠然とした不安	61	42	4.0 %
医療者との関係	22	7	1.5 %
家族関係・人間関係	48	14	3.2 %
検診・治療実績	93	61	6.2 %
補完代替療法	22	4	1.5 %
患者会	3	1	0.2 %
合計	1495	908	

# マズローの欲求階層説から

考察



## 結論

## まとめ

- 2010年1~6月までの退院時支払保留者を追跡調査し、支払保留継続者の内、がん患者が3割を占めた。
- がん患者の治療費問題については、単純な経済的問題としてではなく、心理社会的痛み（suffering）として多層的に理解する必要がある。

2010 1... 日 院 吐 士 + / 印 切 申 孝  
 クロス集計表 (2 × 2)

	8月審査時 完納者群	9月審査時 支払い保留継続者群	計 (人)
がん以外の患者群	239	56	295
がん患者群	51	24	75
計 (人)	290	80	370

期待値を求める (独立性のカイ2乗検定)

	8月審査時 完納者群	9月審査時 支払い保留継続者群	支 計 (人)
がん以外の患者群	$a \times b / N$	$c \times b / N$	295(b)
がん患者群	$a \times d / N$	$c \times d / N$	75(d)
計 (人)	290(a)	80(c)	370(N)

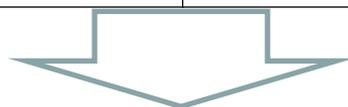
全体

8月時清算済

8月時未清算

期待値を求める（独立性のカイ2乗検定）

	8月審査時 完納者群	9月審査時 支払い保留継続者群	計（人）
がん以外の患者群	$a \times b / N$	$c \times b / N$	295(b)
がん患者群	$a \times d / N$	$c \times d / N$	75(d)
計（人）	290(a)	80(c)	370(N)

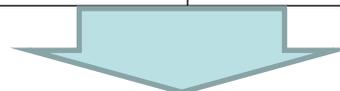


	8月審査時 完納者群	9月審査時 支払い保留継続者群	計（人）
がん以外の患者群	231.2	63.7	295(b)
がん患者群	58.8	16.2	75(d)
計（人）	290(a)	80(c)	370(N)

$$X^2 = \sum \frac{(\text{実測値} - \text{期待値})^2}{\text{期待値}} = 0.26 + 1.03 + 0.93 + 3.75 = 5.97$$

カイ2乗値を求める

	8月審査時 完納者群	9月審査時 支払い保留継続者群	計 (人)
がん以外の患者群	$(239 - 231.2)^2 / 231.2$	$(56 - 63.7)^2 / 63.7$	295 (b)
がん患者群	$(51 - 58.8)^2 / 58.8$	$(24 - 16.2)^2 / 16.2$	75 (d)
計 (人)	290 (a)	80 (c)	370 (N)



	8月審査時 完納者群	9月審査時 支払い保留継続者群	計 (人)
がん以外の患者群	0.26	0.93	295 (b)
がん患者群	1.03	3.75	75 (d)
計 (人)	290 (a)	80 (c)	370 (N)

# カイ2乗分布表から棄却域をみる

$\chi^2$ 分布表

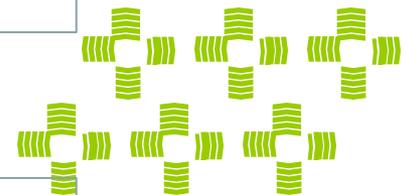
	...	0.100	0.050	0.025	0.01	上側確率 0.005
1	...	2.706	3.841	5.024	6.635	7.879
2	...	4.605	5.991	7.378	9.210	10.597
3	...	6.251	7.815	9.348	11.345	12.838
4	...	7.779	9.488	11.143	13.277	14.860
5	...	9.236	11.070	12.833	15.086	16.750
6	...	10.645	12.592	14.449	16.812	18.548
7	...	12.017	14.067	16.013	18.475	20.278
8	...	13.362	15.507	17.535	20.090	21.955
9	...	14.684	16.919	19.023	21.666	23.589
10	...	15.987	18.307	20.483	23.209	25.188

帰無仮説 ; 長期未収患者群の内、がん患者とがん以外の患者とにおいて、その発生率に差はない

棄却域  $3.841 < 5.97$  よって帰無仮説は棄却される



長期未収患者群の内、がん患者群の発生数は有意に高い



# 研究計画書

- 研究のテーマ・具体的なテーマの紹介—何について研究するのか？
- 研究の背景研究の動機—なぜそのテーマに興味を持ったのか？
- 研究テーマへの興味・関心—そのテーマにどのような理論的興味や関心があるのか？
- 研究テーマの重要性—その問題はなぜ・どのような点で重要なのか？
- これまでの研究の概要研究の状況—研究テーマに関する既存の研究はどのようにになっているのか？
- 既存の研究の問題点の提示—既存の研究をどのように評価するのか？  
—既存の研究にはどのような問題点があるか？
- 研究の目的研究の目的—何を問題にして何を明らかにしようとしているのか？
- 期待される成果—研究を通じて何が明らかにできるのか？
- 研究の方法研究の具体的な方法—どのような方法で研究するのか？  
—その方法がなぜ優れているのか？
- 研究の見通し—その方法で問題が解決できる見通しはあるのか？
- 参考文献引用文献／参考文献一覧表

## 研究対象者に対する倫理的留意点とIC

- 今回の研究の意図
- 研究の方法
- 協力にかかる所要時間や手間
- 予想される危険性
- 収集したデータの管理方法
- 調査結果の発表方法
  
- 個人情報
- 利益相反
  
- \* 人を対象とする研究に関するガイドライン

# 調査のための質問紙について

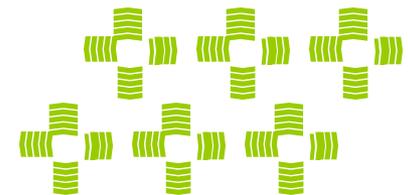
- 質問紙（調査票）による調査
  - \* 自記式調査・他記式調査
  - \* 郵送調査・郵送留め置き調査・留め置き調査
  - \* 集合調査
  - \* インターネットを活用した調査
- 質問紙（調査票）作成の考え方
  - \* 既存の尺度を利用する（妥当性・信頼性）
  - \* 選択肢法（単一回答・複数回答・序列回答）
  - \* 評定尺度法
  - \* 自由回答法（「その他」欄など）
  - \* ワーディング（威光暗示効果・キャリオーバー効果・ダブルバール質問・個人的質問と一般的質問・難しい言葉・曖昧な言葉）

# 質的研究のステップ

- ステップ° 1 研究日誌をつけはじめる
- ステップ° 2 研究手続きを検討する
- ステップ° 3 予備研究をおこなう
- ステップ° 4 主研究を開始し、観察ノートをつける
- ステップ° 5 データの分析をおこなう
- ステップ° 6 研究をまとめる



- ステップ° 4（データ収集の方法）
  1. 観察（参与観察・非参与観察）
  2. 面接・・・構造化面接  
半構造化面接  
非構造化面接  
グループ・インタビュー  
アクティブ・インタビュー
  3. アクション・リサーチ



- ステップ 5 (データの分析)

- ＊ トランスクリプト、フィールドノーツ



- ＊ 定性的コーディング



- ＊ 概念モデルの構築

- ① 脱文脈化 ② データベース化

- ③ ストーリー化 ④ 図解化

- ＊ 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ

- ＊ テキスト・マイニング



# コーディング

データ番号	データ	ラベル	カテゴリー
(聞き手) 今、亡くなったお子さんのご家族からの年賀状見られたとき、一瞬つらい思いがするっておっしゃったんですけど・・・。			
1	それは、我々の側にも、必ずしもパーフェクトなものを行ったという思いが必ずしもないからです。	対応への悔い	結果の評価
2	それは、もし、もしかして、あの時に、あの決断ではない別の選択をしたらあの子は助かったかもしれないという思いが、治療者としても残るわけです。	選択への悔い	結果の評価
(聞き手) 亡くなった場合にはいつもそういうものが残りますか？			
3	ええ、すべて自分が正しいことをやったなんてふうにおもえることなんていうのはありません。	対応への悔い	結果の評価
4	で、また、今やっていることが、100パーセントなら、次の時代の進歩はありませんから。	進歩へのチャレンジ	チャレンジの理由
5	ですから、それは、いつも、ある意味で試行錯誤。できれば錯誤の分は少なくして試行はたくさんしたいんだけど、やっぱりパーフェクトではないことです。	試行と錯誤のバランス	可能性へのチャレンジ
6	ですから、結果が悪ければ悪いほど、反省することは山と出てくるわけですね。	チャレンジの反省	チャレンジの反省
7	結果やはり全てですから。	結果の評価軸	結果の評価

[http://r-takayama.at.webry.info/201201/article\\_4.html](http://r-takayama.at.webry.info/201201/article_4.html)

# コーディングのための分析用紙例

## SCAT(Steps for Coding and Theorization)を使った質的データ分析

番号	発話者	テキスト	<1>テキスト中の 注目すべき語句	<2>テキスト中の 語句の言い換え	<3>左を説明するような テキスト外の内容	<4>テーマ・構成概念 (前後や全体の文脈を考慮して)	<5>疑問・課題
番号	発話者	テキスト	<1>テキスト中の 注目すべき語句	<2>テキスト中の 語句の言い換え	<3>左を説明するよう テキスト外の内容	<4>テーマ・構成概念 (前後や全体の文脈を考慮して)	<5>疑問・課題

ストーリーライン (現時点で言えること)	
理論記述	
さらに追究すべき点・課題	

<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/~otani/scat/#09>

- 研究発表の形式・方法

- ① 口演形式

- パワーポイントの使用

- オープンオフィスソフト

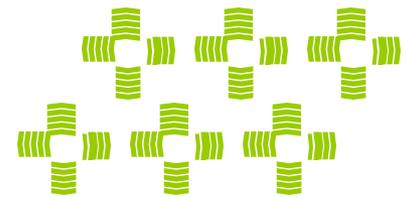
- 時間厳守

- ② ポスター発表 (示説形式)

- 模造紙などの紙媒体

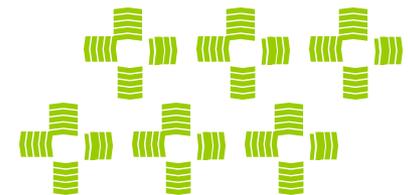
- ポスター用に印刷





# ● 研究発表の構成

1. **表題**：何についての発表なのか、わかりやすい
2. **研究メンバーの氏名と所属**
3. **研究の背景**
4. **研究目的**：この研究で何を明らかにしようとしたか
5. **研究方法**：研究対象・研究期間・データの収集と分析手順  
倫理的留意点
6. **結果**：得られたデータの紹介
7. **考察**：結果をふまえて、どのようなことが考えられるか
8. **結論**：この研究で明らかにできたこと
9. **謝辞**：研究協力者へのお礼
10. **引用・参考文献**



余白：上 20 mm

# ○○○○○○⇒表題（テーマ）

※表題（テーマ）の文字サイズは、  
16ポイントでゴシック

所属先	○氏	名
所属先	氏	名
所属先	氏	名
所属先	氏	名

余白：右  
20 mm

余白：左  
20 mm

【キーワード】：  
5つ以内

1 はじめに  
○○○・・・・・・・・  
(以下内容を記述)

※ 見出し符号は次の  
順序で用います。

1○○○・・・  
(1)○○○・・・  
ア○○○・・・  
(ア)○○○・・・

○○○・・・・・・・・

※ 文字サイズは、  
11ポイントでMS明朝  
※ 文章は2段組で

【引用・参考文献】：  
原稿の最後

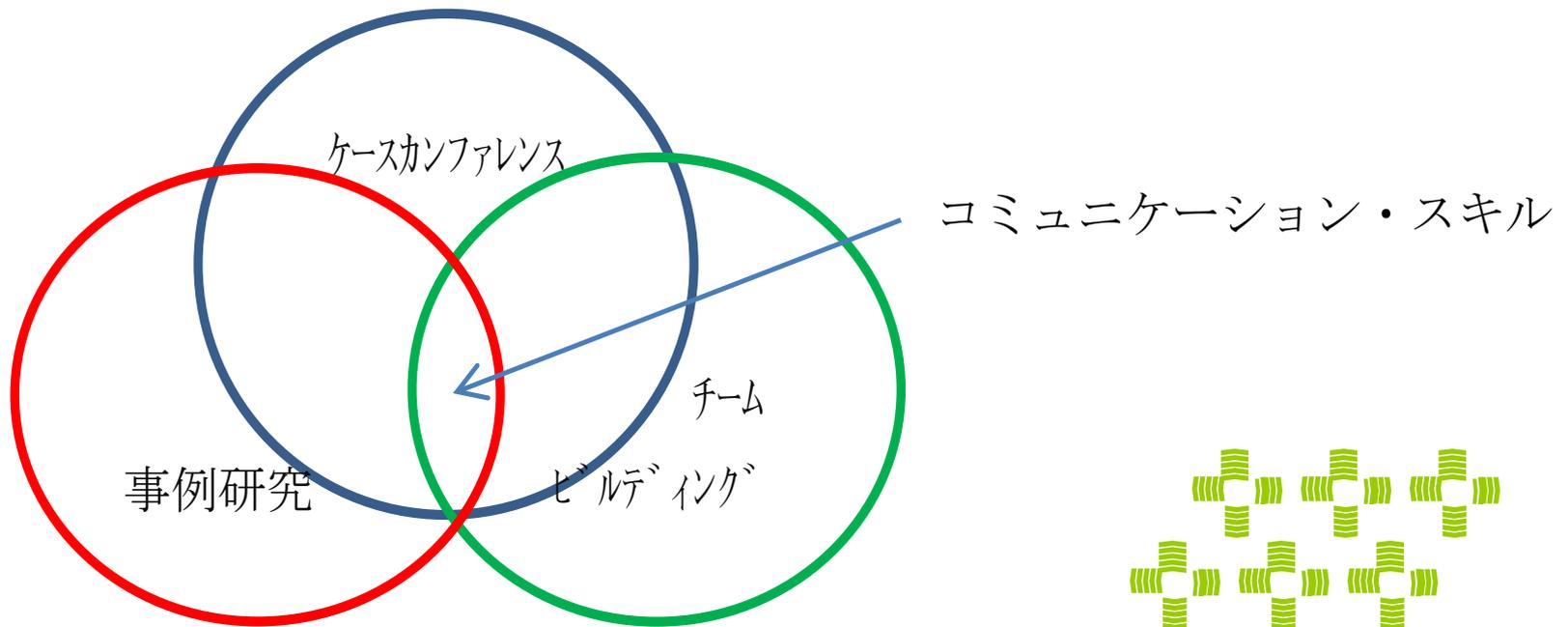
本研究発表の事例及び写真は、利用者及びその御家族の御了解の上、記載しております。

余白：下 20 mm

- 原著 : 独創性・新規性を有し、科学的に価値ある事実、あるいは結論を含むもの
- 総説 : ある事項について系統的にレビューを行い、現在までの知見、将来の方向性、著者の見解などを示すもの
- 事例報告 : 比較的限定された範囲で実施された活動で、一定の成果をあげ、今後の発展・拡大が期待できるもの
- 紹介 : 新規性を有する事項についての情報を提供するもの

## ・事例研究の定義

「対人援助の事例研究とは、ケースカンファレンスによって、当事者本人の理解を深め、そこを起点として対人援助の視座から、今後の援助方針を導き出す力動的過程をいう。



「ニーズ」の背後にある「生活実態」  
鳥の目・虫の目 で観る



「ソーシャルワークの専門性は、現場の実践  
からの発信によるしかない」（太田義弘）

「走狗にならないために」

